

門真市第 3地域包括支援センター活動計画書、活動報告書（令和6年度版）

資料1-③

●令和6年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	9
主任介護支援専門員の人数	10
介護支援専門員の数	14

●令和6年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率(%)
令和6年3月	264	8	256	97.0%
令和7年3月				

R6.12月時点 長崎0件 河村6件 村井10件

事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題	上半期実績に対する市の講評	当該年度活動内容のまとめと課題	当該年度活動実績に対する市の講評			
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数									
ケアマネジナルの継続的業務	事例検討会	1		2	0	2	30	0	0	1	12	3	事例検討会については、多岐にわたる課題を抱えた利用者の事例を用いて、様々な専門職の意見を共有する。その中で、新たな気づきが発見できると考えている。研修会においても、参加者のニーズに応じた内容を組み立て、開催する予定である。	協力団体である居宅介護支援分科会との法定外研修に加えて、下半期に法定外研修を執り行う。また、元気はつらつ体操の活用にあたり、視野を広く持ちハードルを下げ、気軽に利用していただけるをコンセプトに事例研修会を計画中である。	元気はつらつ教室をマニュアル通りに卒業されたケースを通して、モチベーションの保ち方や卒業後のつなげ先におけるやりがいを持ってもらう支援等の事例検討会を実施予定されており、人員が不安定な中、元気はつらつ教室の利用につながるような研修会を企画されていて、非常に評価できます。	稀有なケースではあるが、『専門医に神経難病（ALS・パーキンソン病）の方の在宅支援を考える』をテーマに講義いただいた。まずは病気の特性や傾向を理解すること、本人や家族の不安に対する心理的なサポートも重要となる。加えて、制限や制約の中でいかに活動の場面を作っていくかなど、さらにチームアプローチの理解が深まった。	地域の課題やニーズを詳しく把握され、研修や検討会につなげていただいていると思います。居宅分科会さん等、別団体さんとも連携し企画、実施されており評価できます。 元気はつらつ教室では直持ちケースも担当され、委託ケースもあり、ご本人さんの状況に合わせて今後も支援いただければと思います。		
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0								
	研修会（法定外研修含む）	2		5		5	50	0	0	2	108							3	
	うち、他圏域との合同開催数				3			0	0	0	0								
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2		2		2	30	3	44	3	44							4	
	元気はつらつ教室利用者数（直持ち）		20				0		6		2							2	3
	元気はつらつ教室利用者数（委託）						8		6		1							5	3
	元気はつらつ教室終了後ケアマネジメントB算定件数（3か月後/6か月後）		12				3		5		2							3	3
ケア地域会議	個別地域ケア会議 延べ件数（実件数）	延べ3		延べ3		延べ3		延べ3（実3）		延べ5（実5）		4	昨年度に引き続き、地域ケア会議を開き課題を抽出し、各関係機関（地域住民・金融機関・商店・医療機関など）と共に取り組んでいく。	経験が少なく、ALSの診断が下りた高齢者の退院後の支援について個別ケア会議を開催した。包括にとっても、問題を分析し解決策をみつける力が身についたと感じている。	個別地域ケア会議の年間活動回数を上半期で到達されており、今後も引き続き圏域課題の抽出等のために積極的に開催をお願いします。	地域課題として捉えている多頭飼育崩壊について、その背景と支援方法、家族が抱える複数の問題要因やシステム理論を学んだ。未然に防ぐための予防的支援としては、各関係機関との連携が不可欠であると実感した。	地域課題を検討いただき、また次の研修につなげておられます。課題が発生する前に未然に防ぐ検討は良い取り組みだと思います。個別ケア会議もケースに応じて迅速に対応されています。		
	圏域地域ケア会議	1		1		1	20	1	36	1	36	3							
把握事業防	基本チェックリスト実施件数		30		42		50		26		51	3	基本チェックリストについては、これからも必要な方が、適切な支援に繋がらないという状況を回避するために活用したい。	基本チェックリストを実施することにより、自身の状態把握のツールとして、理解を深めていただけた。	チェックリスト実施から総合事業につなげた人数が多く、効果的に利用されていると思います。	継続者と新規総合事業利用者以外で、新規総合相談時に実施したケースが25件、そのうち20件は総合事業につながった。	チェックリストから総合事業につなげていただいた件数が多かったと思います。今後もよろしくお願いいたします。		
	上記のうち総合事業につなげた件数							20		40	3								
普及啓発事業防	介護予防教室	12	120	13	201	12	170	12	263	14	279	4	介護予防教室では、医療面を含めて、各関係機関と連携し、幅広いテーマを取り上げる。地域住民が自立した日常生活が送れるよう生活の質を高め、住み慣れた地域での社会参加を促したいと考える。	課題であった男性の参加者に狙いを絞り、運動と健康寿命や病気との関係、運動の種類について講義および実技の予防教室を行った。講義終了後は運動の大切さを実感されていた。さらには「予測できない地震に備える！もしものときのアクションプラン」をテーマに、地震発生時に備えて、とるべき基本行動と地震のメカニズムが習得できた。	「防災」をテーマとした教室を開催され、男性の参加者数が増える等、テーマの選定を工夫、教室開催のチラシを老福、自治会長経由で配布し、1回あたり20名以上が参加され、テーマや周知活動の工夫が窺えます。	行政書士による終活のためのライフプランノートについて予防教室を開催した。文字に起こしておけば一つ一つの事柄が整理でき、満たされた気持ちになれることが身についた。また、フレイルチェックや身体に必要な栄養素をいつでもどこでも手軽に補給できるバランス栄養食であるカロリーメイトゼリー(大塚製薬)を周知することができた。	専門職や企業とコラボされ、教室の内容を工夫されていると思います。老人福祉センターとも連携いただけております。		
	うち、他圏域との合同開催数			1	21			0	0	0	0							0	
	出前講座			1	15			0	0	2	56							4	
	うち、他圏域との合同開催数							1	10	1	10								
	介護予防教室・出前講座以外の普及啓発活動	1	10			1	15	0	0	3								4	
	うち、他圏域との合同開催数							1	10	3									

	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題	上半期実績に対する市の講評	当該年度活動内容のまとめと課題	当該年度活動実績に対する市の講評
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数						
地域支援事業 介護予防活動	通いの場の開催支援	10	100	53	181	53	180	27	101	59	222	4	内容に関しては、新たなチャレンジができればと考えているが、集中して何かひとつのものを作り上げるコンセプトに、多様性を高め、これからはボランティア等養成及び活動支援を継続したい。	認知症予防に有効だと言われている、要素羅列絵を実施した。模様が対象に描かれた要素羅列に色を塗っていく作業である。参加者からは、集中して時間が経つのが早かった、リラックスできたなどの感想をいただき効果を実感した。	通いの場の担い手問題はありますが、参加者数の多い通いの場は二部制にして、より多く参加ができるようにしている。	専門職派遣による体力測定回数は伸び悩んだが、その一方で、通いの場において二部制を導入したことにより、より多くの方が参加でき、運動が習慣化したと好評いただいている。	通いの場を支援いただき、現在の課題なども把握していただけています。二部制を導入いただく等、状況に応じて支援されていると思います。よろずカフェのように、体操に限らない場を提供するなど、住民のニーズもとらえて活動されていると思います。
	通いの場への専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	3	33	3	40	1	15	2	23	3					
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	24	205	12	150	4	52	9	131	3					
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0	0	0						
介護予防拠点の開発	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			9	125	9	120	9	123	18	258	3	2層のコーディネーターや自治会などと協力しながら、新たな通いの場づくりに乗り出し、展開していければと考えている。同時に、立ち上げたいという声があれば、ニーズに応じてサポートに回りたい。	課題でもある、場所の確保やリーダーになってくれる人がみつからない。	場所の確保及び担い手の発掘等は2層SCと連携をしていただき、1つでも通いの場が立ち上がるように、引き続き努力していただきたい。	今年度は、新たな通いの場に手を広げることができなかった。今後も2層のコーディネーターや自治会などと情報共有しながら、積極的に取り組んでいきたい。	通いの場の課題は尽きず、立ち上げは困難なことが多いと思います。引き続き2層コーディネーターとも連携いただき取り組んでいただきたいです。
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	1	30	1	10	0	0	0	0	2					
認知症総合支援事業	認知症初期集中支援チーム発動件数		2		0		1		0		0	2	認知症カフェでは、今までボランティアの方々にサポートしていただいているが、より活躍できる場を広げたい。さらには、これまでの実績、介護予防を目的とした講座をブラッシュアップし、他圏域と共催することを今年度の目標にしている。	認知症サポーター養成講座受講者を対象に、11月に認知症サポーターステップアップ講座を予定している。認知症の方やその家族の支援が地域でできるよう、正しい知識の習得を目的にしている。	認知症カフェにおいて、配膳等をしてくれる参加者を養成されている。配膳等を一歩として、負担にならない程度に協力いただけそうな部分を増やしていただきたい。	認知症サポーターステップアップ講座では、認知症の方の生きづらさを知り、対応のヒントを見つけることができたに関心を示されていた。これからも、その人が望む暮らしの実現に向けて、地域課題を抽出していく必要性を感じた。	他圏域と合同で認知症サポーター・ステップアップ講座を開催していただきました。認知症カフェも継続して支援いただき、認知症の方やその家族の支援のため工夫されていると思いました。
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5			12→17	50→55	5	15	9	30	3					
	認知症サポーターステップアップ講座	1	10	1	9	1	10	0	0	1	7	3					
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	1	7						
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5			4	50	4	12	8	22	3					
うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0							
任意事業	家族介護教室	1	5	1	10	1	10	0	0	0	0	3	任意事業では、介護に関する知識を高め、介護する人介護される人、双方の負担を軽減する。また、介護者同士の交流を図ることで、ひとりで抱え込むことがなくなる。これからも、このような地道な活動を続けることで地域の課題に向き合っていきたい。	「認知症世界の歩き方」のワークショップを通して認知症見守り教室を開催した。ケーススタディを用いることで問題解決に結びつけるスキルを養うことができ認知症の方がどのように考えているのかを推測する過程を感じていただけた。また、一般の方向けに認知症サポーター養成講座を他圏域と共催し、実施する予定である。	以前より介護者家族交流会を立ちあげ、開催支援をされているため、引き続き継続していただきたい。	地域に広めていきたいという思いから、福祉用具などを実際に体験していただき、同じ視点に立つて物事を考え、その先の行動につなげられる力を身につけるための家族介護教室を企画している。	認知症サポーターのジュニアを開催できないか、様々な形をご検討いただけていると思います。ジュニアの講座につながらなくても、その他の活動の中で、高齢者と子ども世代間交流も視野に入れられており、引き続きご協力いただきたい。
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）							0	0	0	0						
	認知症見守り教室	2	10			2	20	1	15	1	15	3					
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）							0	0	1	110						
	介護者家族交流会(立上及び開催支援)	1	5	12	38	12	30	3	17	8	57	3					
	介護者家族健康相談		1		0		1		0		0	3					
	認知症サポーター養成講座(一般)	2	10	1	15	1	10	0	0	1	7	3					
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	1	7						
	認知症サポーター養成講座(ジュニア)	1	10	0	0	1	10	0	0	0	0	2					
うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0							
対面相談	夜間・休日に対面して相談対応した件数（計画の記載は不要）			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数						
				0	0			0	0	0	0						